

## 序章 アラブ女性研究の動向

### I. アラブ女性研究の動向

1975年に始まる「国連婦人の10年」を契機として世界的に活発になった女性の地位改善をめぐる動きとともに、アラブ女性に関する研究情報の整備や、女性の役割と地位に関する多くの研究が進められている。このような動きは、国連西アジア社会経済委員会（ESCWA）やアラブ連盟などを中心とするものである。たとえば、女性問題専門家によるアラブ国際会議が活発に開催され、アラブ女性の手による研究や女性研究の現状が数多く報告されている。特に1982年チュニスにおいて開催されたアラブ女性社会学会議の報告は、『社会科学研究とアラブ世界の女性』（E25）としてユネスコから刊行されており興味深い。彼女らは、アラブ女性の地位と役割に与える影響として「イスラーム」、「地域的な習慣や伝統」、「近代化」、「国家開発」などの要因から女性の問題を捉えようとするものである。同書のなかでエジプトの社会学者であるアブデル・カーデル（S. Abdel-Kader）は、『アラブ女性に関する社会科学研究的動向調査、1960—1980』（E1）において過去20年間のアラブ女性研究を次のように批評している。

- (1) 安易な一般化によってアラブ女性を位置づけ、通常、社会経済的な相違、農村と都市との相違、また、地域、民族、宗教などの相違が無視されている。
- (2) 女性研究の方法論として、西欧的なモデルと比較したアラブ女性の近代性や類似性と相違性が測られる傾向にあり、アラブ社会の構造的、力学的側面が無視されている。
- (3) 女性の地位の指標に関するコンセンサスが欠如しており、しばしば用いられる指標は、

労働力参加とか教育参加の指標であり、「名声、権力、尊敬」を測ることによって女性の地位を確定しようとしている。しかし、このような指標は包括的なものではなく、統計データが偏っている場合がある。

- (4) アラブ地域においてまだ調査されていない領域が多いが、いくつかの領域において過度の繰り返しがあり、また一方では情報の欠如がある。
  - (5) 文献の多くはイスラームと女性の地位に関する論争を中心とするもので、実際に日常生活のなかでどうイスラームが女性の生活に影響を及ぼしているかを考察していない。
  - (6) 都市の上層を研究することによって全階層の女性を一般化する傾向がある。西欧の学者と中東の学者の双方にこの傾向がみられ、前者は、アラビア語の知識の不十分さと現地での調査の受入れにおける制限のためであり、また後者は、ほとんどが上層の出身者であるため都市の上層女性の研究により適性を見いだしているためである。
  - (7) 女性と開発の領域は、女性に関する包括的なデータを生み出そうとしているが、まだ国家開発のなかへ女性を統合する最良の方法に関する一致がない。
  - (8) 女性研究者たちは、多くの女性たちが尊重している宗教的な観点、あるいは彼女たちが生活において重要視している観点について研究を行うべきである。たとえば、フェミニストたちは、身分法の改正と闘っているが、女性の大多数は、どの程度法的な差別に気づき憤慨しているのかに目を向けるべきである。
- アブデル・カーデルは、今後の研究におけ

る提言として包括的な研究情報やデータの蓄積、繰り返しをさけるために個人あるいは組織レベルにおける情報交換の改善、社会階層間や宗教、民族間の相違となる要因の研究、適切な研究方法論の開発や理論的枠組み、他地域の研究者との共同研究の推進などの必要性を指摘するものである。これまでの女性研究に関する同様の批判は、他のアラブ人社会学者の間にもみられ、これまでの欧米中心の女性研究のあり方を見直す動きが現れている。

一方、欧米の研究者の間からもアラブ女性研究の見直しが指摘されている。たとえば、民族学者の立場からネルソン(C. Nelson)は、『古いワイン、新しい皮袋：中東研究の女性研究に関する反映と投射』(E12)において1980年代初期までの中東女性研究の特徴を次の4期に分けて回顧している。

(1) 覚醒期：第2次世界大戦後から1950年代女性の地位の変化と社会の近代化との密接な関わりを仮定し、新しい女性の開発を強調したり、西欧的な認識によって中東の「伝統性、イスラーム性、保守性」と「近代性、文化性、進歩性」とを対比させて女性を分析した。

(2) 経験主義的な凝視：1960年代

女性状況をより明確に認識してきたが、西欧の理論的な枠組み、すなわち男性に支配された枠組みの凝視を優先にして中東女性研究が継続した。つまり主に、男性研究者によって研究がなされ、ほとんどの文献は女性の地位と役割の変化とを関連させて論じ、女性の向上のために伝統を打破する必要性を指摘していた。

(3) 危機的な反応：1970年代

西欧的な男性支配主義とイスラーム的な中東の家父長制に対する批判が始まり、もはや古い枠組みは中東の女性の現実を説明できなくなった。すなわち女性の政治的経済的な重要

性を認識し始めてきた。

(4) 地域に根ざした追求：1980年代

女性による研究が増加した。特に中東女性研究者は、自らの社会に目を向け、たとえば、民族学において女性の隔離とその地域社会における女性の重要性、などの関係を考察した新しい研究が現れている。これらの研究は、研究の土着性の問題において概念的な、また方法論的な洞察力を持った力強いものである。今後の研究についてネルソンは、このように進展してきた中東女性研究に対する新しい枠組みの必要性を指摘し、それは、単一の枠組みではなく多様な歴史や文化、社会階層に渡った女性の生活の複合性を説明するものが望ましいと結論づけている。

ところで、最近のエジプト女性史の研究では、今までにみられなかったような包括的な女性史研究が主にエジプト人研究者によって次々と発表されている。これらは、単なるエジプト女性の通史ではなく、社会変化との関連でエジプトのフェミニズム運動や女性の政治参加、労働力参加の変化を論じたものである。また、西欧人あるいは西欧において教育を受けた研究者たちを中心として、今まで注目されなかった近代エジプト史における女性の役割や地位、社会階層、女性運動などに関する研究が現われている。このような研究は、カーシム・アミンの女性解放論や1919年革命期の女性運動をエジプトの近代化過程においてのみ論じる傾向にあったエジプト女性史の空白をうめ、近現代女性史に連関性と深い洞察を与えるものである。

また、アラブ女性の状況をアラブやイスラーム社会特有の問題としてとらえる傾向にあった、いわゆるオリエンタリスト的な観点を批判する研究者が増えている。特に女性の労働力参加を考察する場合、世界経済市場との関連で論じる文献が主流になっていると思われる。たとえば、

経済史学者のタッカー(J. Tucker)のように、「従属理論」的な立場からエジプト女性の社会変化を論じるのがそれである。タッカーは、『中東における女性史編集の諸問題；19世紀エジプトの場合』(E21)において、女性史研究の注意点として次の3点をあげる。

- (1) 女性の活動や貢献がみられる領域を拡大する必要があること。
- (2) 家族構造、財産への接近、社会的生産における参加のような社会形成と女性の活動や地位との関係を考察すること、あるいは複雑に織りなされたイデオロギーの確定の必要性。
- (3) 史料のなかには女性に対する偏見がみらることに十分配慮し、女性の不明瞭な世界に関係するような史料にも目を向けること。

ところで、エジプトの女性研究では、社会犯罪研究センターやカイロ・アメリカン大学社会調査センター、アインシャムス大学社会学科によって、実態調査を中心とした各分野の調査研究が実施され、多くの成果をあげている。これらの実態調査は、政府統計に現れない農村女性や都市下層の女性に関する多くのデータを提供する貴重な調査研究である。

また、社会犯罪研究センターの定期刊行物である『National Review of Social Science』(E13)(A9)と、アメリカン大学のモノグラフシリーズである『Cairo Papers in Social Science』(E5)には、女性関係の論文が多く含まれており興味深い。

## II. 女性研究に関する書誌

近年になって、女性研究を支援する文献解題や書誌も次々と出版されている。たとえば、1989年にESCWAと社会犯罪研究センターが『アラブの女性状況に関する指標の開発と統計の改

善についての全体会議』を共同開催し、これまでの女性研究の成果をまとめている(A1)。これは、西アジア、エジプト、バハレーン、シリア、パレスチナ、イラクなどの女性に関する社会経済指標となる資料、あるいは西アジア地域の女性状況に関する統計や指標の質的量的な改善、あるいは測定方法、測定概念の改善に向けた報告書である。

また、社会犯罪研究センターの『女性問題に関する文献解題』(A10)は、アラブ地域、特にエジプトの女性に関するアラビア語研究文献の包括的な文献解題である。1980年頃までにエジプトの大学で取得された修士・博士論文と研究者の調査研究論文など450点を収録する。

マルコス(W. Marcos)の『母子福祉研究—評論』(A8)(E10)は、エジプト女性と児童に関する研究の文献サーベイで、1979年までに発表されたアラビア語文献45点、英語文献25点を分野別に評論したものである。

アラブ連盟ドキュメンテーションセンターが編集した『アラブ女性文献目録』(A3)は、アラビア語文献122点と欧語文献229点を収録したもので、主題索引からマグレブ諸国やレバノン、エジプトの女性研究が多いことがわかる。

一方、欧米で刊行されたものをみると、アル・カッターズ(A. al-Qazzaz)の『中東・北アフリカにおける女性：文献解題』(E15)が充実している。同書は、1976年までに発表された英語文献約250点に関して丁寧な解題が付され、巻末には国別索引、主題別索引がある。

メグデシアン(S. R. Meghdessian)編の『アラブ女性の地位：精選書誌』(E11)は、1616点の女性問題に関する文献を国別に分類したもので、エジプトについては160点の文献を含む。

< 文献目録—アラビア語 >

- 1 (A) الأمم المتحدة . اللجنة الاقتصادية والاجتماعية لغربي آسيا:  
الاحصاءات والمؤشرات المتعلقة باوضاع المرأة المصرية بين  
الواقع والمأمول . القاهرة ، المركز القومى للبحوث الاجتماعية  
والجنائية ، 1989 . 61 ص .
- 2 (A) انگرامز، دورين: نحو دراسة المرأة العربية (1) المرأة العربية من  
وجهة نظر غربية . شؤون عربية (22) ديسمبر 1982 : ص 94-110 .
- 3 (A) جامعة الدول العربية . مركز التوثيق والمعلومات . قسم بنوك المعلومات:  
ببليوغرافيا المرأة العربية . شؤون عربية (31) سبتمبر 1983 :  
ص 107-136 .
- 4 (A) رسّام، أمل: نحو دراسة المرأة العربية (3) نحو اطار عمل نظري  
لدراسة المرأة في العالم العربي . شؤون عربية (22) ديسمبر  
1982 : ص 110-124 .
- 5 (A) الساعاتى، سامية حسن: دور المثقفات المصريات فى التغيير الاجتماعى  
(بحث اجتماعى - تاريخى) المجلة الاجتماعية القومية (2/3) 17  
مايو/سبتمبر 1980 : ص 121-148 .
- 6 (A) شومان، محمد: الورقة المرجعية ، قائمة بالندوات والحلقات الدراسية  
حول قضايا المرأة دراسة حالة ، مصر 1960-1986 . القاهرة ،  
UNESCO/ESCWA ، ص . 278-309 . (ندوة الخبراء حول المرأة العربية  
والتغيرات الاجتماعية والثقافية ، 87)
- 7 (A) فاطمة أو صديق: نحو دراسة المرأة العربية (2) الشروط الازمة لتولي  
النساء مسؤولية البحوث المتعلقة بالمرأة فى المنطقة العربية .  
شؤون عربية (22) ديسمبر 1982 : ص 102-110 .
- 8 (A) مرقص ، وداد سليمان: المرأة والطفولة ، دراسة تحليلية نقدية .  
القاهرة ، جهاز تنظيم الأسرة والسكان ، 1981 . 52 ص .  
(دراسات تحليلية ، (1))

(A 9) المركز القومى للبحوث الاجتماعية والجنائية : المجلة الاجتماعية القومية .  
—(1) 1، 1964—

(A 10) المركز القومى للبحوث الاجتماعية والجنائية . اللجنة القومية للمرأة :  
البليوجرافية الشارحة ، للمواد المنشورة فى مجال المرأة . اشراف  
وتقديم : ناهد رمزى . القاهرة ، 1982 . 183 ص .

<文献目録—欧語>

- (E1) Abdel Kader, Soha : A survey of trends in social sciences research on women in the Arab region, 1960-1980. (Social science research and women in the Arab world) Paris, UNESCO, 1984 : p.139-175.
- (E2) Abdel Kader, Soha : Status of research on women's population and development in the Arab region. Population studies 8(57) Apr./June 1981 : p. 3-35.
- (E3) Ahdab-Yehia, May & May Rihani : A bibliography of recent research on family and women in the Arab states. Beirut, Beirut University College, 1976.
- (E4) Allman, James & Ben Achour Cherifa & Toby Stone : A bibliography of recent social science research on the family in the Arab states. Beirut, UNESCO, 1974.
- (E5) American University in Cairo : Cairo papers in social science 1(1): 1977-
- (E6) Arebi, Saddeka : Gender anthropology in the Middle East ; the politics of Muslim women's misrepresentation. American journal of Islamic social science 8(1) 1991 : p. 99-108.
- (E6) Badran, Margot : The institutionalization of Middle East women's studies in the United States. Middle Eastern Studies Association bulletin 22(1) 1988 : p.9-22.
- (E7) Bezirgan, Basima Qattan : The status of the Arab woman ; a select bibliography. Women's studies international forum 5(2) 1982.
- (E8) Gulick, John & Margaret E. Gulick : An annotated bibliography of sources concerned with women in the modern Muslim Middle East. Princeton, Princeton University Press, 1974.
- (E9) Keddie, Nikki R.: Problems in the study of Middle Eastern women. International journal of Middle East studies 10(2) Apr. 1979 : p. 225-240.
- (E10) Marcos, Wedad Soliman : Mother and child welfare studies; a critical review. Cairo, Population and Family Planning Board, 1981. 60 p.

- (E11) Meghdessian, Samira Rafidi : The status of the Arab woman ; a select bibliography. Westport, Greenwood Press, 1980. 176 p.
- (E13) National Center for Social and Criminological Research : National review of social science 1(1) : 1964-
- (E12) Nelson, Cynthia : Old wine, new bottle; reflections and projections concerning research on women in Middle Eastern studies. (The Contemporary study of the Arab world, edited by E. L. Sullivan & J. S. Ismael) Edmonton, University of Alberta Press, 1991 : p. 127-152.
- (E13) al-Qazzaz, Ayad : Current status of research on women in the Arab world. Middle East studies 14(3) Oct. 1978: p. 372-376.
- (E14) al-Qazzaz, Ayad : Women in the Arab world; an annotated bibliography. Detroit, Association of the Arab-American University Graduates, 1975. 39 p.
- (E15) al-Qazzaz, Ayad : Women in the Middle East and North Africa ; an annotated bibliography. Austin, University of Texas Press, 1977. 179 p.
- (E16) Quarterly index Islamicus. London, Mansell, Vol.1, No.1 : 1976 —
- (E17) Raccagni, Michell : The modern Arab woman; a bibliography. Metuchen, Scarecrow Press, 1978. 262 p.
- (E18) Rassam, Amal : Introduction, Arab women ; the status of research in the social sciences and the status of women. (Social science research and women in the Arab world) Paris, UNESCO, 1984 : p. 1-13.
- (E19) Rassam, Amal : Towards a theoretical framework for the study of women in the Arab world. (Social science research and women in the Arab world) Paris, UNESCO, 1984 : p.122-138.
- (E20) Ruud, I. M.: Women's status in the Muslim world ; a bibliography survey. Köln, E. J. Brill, 1981.

- (E21) Tucker, Judith E.: Problems in the historiography of women in the Middle East; the case of nineteenth-century Egypt. *International journal of Middle East studies* 15(3) 1983 : p. 321-226.
- (E22) Van Dusen, Roxann : The study of women in the Middle East ; some thought. *Middle East Studies Association bulletin* 10(2) May 1976 : p. 1-19.
- (E23) United Nations : Bibliography for Arab countries on the integration of women in development with special reference to population factors. 1975.
- (E24) United Nations. Economic and Social Commission for Western Asia. Library : Special bibliography series, women. Baghdad, 1987. 24 p.
- (E25) United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization : Social science research and women in the Arab world. Paris, 1984. 175 p.